

“肝機能” liver function という錯誤

「“肝機能”は正常、異常」という物言いは始終聞かされる。論文や症例報告にも書かれている。アメリカの雑誌にさへ liver “function” とある。このとき“肝機能”はいったい何を指しているのだろうか。それは AST・ALT・LDH である。

これら酵素は細胞内の物質である。細胞が崩壊すると内部物質は外に放出されて血液内にはその物質が増量する。ここで立ち止まって考えてみよう。これら酵素物質は肝細胞に豊富に含まれているが、その血中濃度は肝臓の“機能”の反映なのだろうか？“機能”の指標となるのだろうか？

そもそも肝臓の機能は代謝機能である。看護婦国家試験にも「肝臓機能は代謝」とされているとおりである。AST・ALT・LDH は代謝機能の指標ではない。代謝の例を挙げれば、アルブミン・プロトロンビン・フィブリノーゲンなどの肝臓で合成された蛋白体が機能を反映する指標である。AST・ALT・LDH は肝実質細胞の崩壊量を反映する。ALT がべらぼうに多ければ肝細胞が多量に崩壊した徴である。

したがって AST・ALT・LDH を肝機能とラベルしてはならないことになる。用語が間違っている。コトバは認識概念である。用語が誤っていることは認識が誤っていることに等しい。コトバには敏感に注意を払わねばならない。ことに医学診療のようなヒトの生命生活に直結する判断にかかわる科学において、漫然と慣用句を使用して誤りを誤りとも気づかないようではならない。

AST は肝機能どころか肝細胞崩壊の特異的指標でもない。筋肉にも多量に含まれて筋肉崩壊でも増量する。血球にも多量にある LDH を溶血とも知らずに肝機能異常として検査するような肝専門医がいてはならない。ALP を年余にわたって調べて結論を得ず、骨芽細胞由来であった副甲状腺腫や骨軟化症を見逃すようではならない。

それら誤診の拠って来るところは、肝機能ではないのに肝機能のラベルのままを頭に入力して放置しておいた慣用である。定義正しく更新したい。考えることを AI(人工知能)に任せておいてよいわけではない。